

実習内容(科目)

基礎看護学実習

地域・在宅看護実習

成人看護学実習

老年看護学実習

小児看護学実習

母性看護学実習

精神看護学実習

総合実習

基礎看護学実習 I-1 / 1 学年

1. 実習目的

看護を学ぶ素地を養うため、医療の行われている場を見学し、患者の生活環境を理解する。

2. 実習目標

- 1) 患者の生活の場としての環境を理解する。
- 2) 患者の1日の生活の中で日常生活援助が実施されている場を見学し、患者と看護師のかかわりについて学ぶ。

3. 実習方法

[病棟]

- 1) 看護師に随行し、見学実習を原則とする。
- 2) 入院患者とのコミュニケーションを図る。
- 3) 服装は、学生用実習衣およびナースシューズを着用する。

4. 実習時間および単位

総時間 8時間 (1単位)

※基礎看護学実習 I-1 (8時間) と基礎看護学実習 I-2 (37時間) をあわせて1単位 (45時間) とする。

- 1) 臨地実習 (病棟) 7時間
- 2) 学内実習 1時間 (0.02単位)

目的: 臨地実習での学びを深める。

内容: 実習グループごとに担当教員と共にミーティングを行い、見学したことや気が付いたことについて振り返り、グループメンバーで共有する。

9:00~9:45	9:45~10:30	10:30~11:15	11:15~12:00	12:00~12:45	13:45~14:30	14:30~15:15	15:15~16:00
臨地実習					臨地実習		学内実習

5. 実習記録

実習記録の様式を参考に作成する。

6. レポート

- 1) 基礎看護学実習 I-1 について、実習目標に沿って学んだことや気づいたことを A4 レポート用紙 2枚程度にまとめる。
- 2) レポートは実習記録と共に実習終了後 1週間以内に担当教員に提出する。

7. 実習評価

- 1) 点数化はしない。
- 2) 臨床指導者・担当教員が実習態度 (礼儀・言葉づかいなど)、実習記録の内容等から気付いたことや指導内容をレポートに記述する。

基礎看護学実習 I—2/1 学年

1. 実習目的

健康が障害された患者に基本的な知識と技術を適応し、日常生活援助を実践できる能力を養う。

2. 実習目標

- 1) 観察力を養いながら患者の基本的ニーズを理解し、日常生活援助を実施できる。
- 2) 患者・家族との良い人間関係が成立するためのコミュニケーションの必要性を学ぶ。
- 3) 看護学生としての自覚をもち、行動できる。

3. 実習方法

- 1) 病態は安定しているが日常生活に介助を要する患者を一人受け持つ。
- 2) 基本的ニーズを観察し必要な援助を見出す。
- 3) 患者に関する情報や学んだ知識をもとに、患者に日常生活援助を実施する。

(1) 情報から充足の度合をアセスメントし、必要な援助を考える。

- ・ 患者が困っていることや1人でできないことはないのか。
また、苦痛なことはないのか。
- ・ 現在の状態をどう感じているのか。
- ・ それらの理由や原因は何か。
- ・ そのままにすると何が問題となるのか。

(2) 基本的欲求を充足するために必要な援助方法を決定する。

- ・ 満たすべき欲求は何か。
- ・ 現在の状況より更によりよい方法はないのか。
- ・ 実施可能なのか。
- ・ 安全安楽な方法で個別性は考慮しているか。

(3) 決定した援助を安全安楽に実施する。

- ・ 援助の目的、留意事項をふまえているか。
- ・ 援助の必要物品は何か。
- ・ 患者の状態に合わせた手順を考え、原則を守り、安全安楽な援助をする。
- ・ 患者の状態、反応を観察する。

(4) 目的、目標を達成できたか評価する。

- ・ 患者の反応から行った援助はどうであったか。
- ・ 悪かったのであれば原因を追求し、改善点をあげる。
- ・ 患者の反応を見ながら、安全で安楽であったか。
- ・ よかった点、改善すべき点をあげる。

4) 記録・報告

(1) 看護記録はメモ帳に下書きをし、指導者の指導を得てから本書きする。

(2) 受け持ち患者に関することは受け持ち看護師に報告する。

5) 学生は毎日、1日の目標と行動計画を立て、指導者の助言を得ながら行動する。

6) 患者とのコミュニケーションを通して、出来るだけ患者を理解する。

7) カンファレンス等を通じ、自己の行動を意識化するとともにメンバーとしての役割を理解する。

(1) 毎日の指導者とのミーティングを密に行い、学生カンファレンスは、木曜日か金曜日に1度行う。

(2) 個人の経験をグループメンバーで共有し、共同学習の場とする。

4. 実習時間および単位

総時間 37 時間

※基礎看護学実習 I - 2 (37 時間) と基礎看護学実習 I - 1 (8 時間) をあわせて1 単位 (45 時間) とする。

1) 臨地実習 31 時間

2) 学内実習 6 時間 (0.13 単位)

目的：臨地での学びを振り返り、学びを共有する。

内容：①実習グループごとに担当教員と共にミーティングを行い、援助の方向性について話し合い翌日の援助につなげる。

②受け持ち患者の看護を実践するために不足している学習を進める。また、技術練習の機会とする。

<実習時間>

	9:00~9:45	9:45~10:30	10:30~11:15	11:15~12:00	12:00~12:45	13:45~14:30	14:30~15:15	15:15~16:00
月	臨地実習				臨地実習		学内実習	
火	臨地実習				臨地実習		学内実習	
水	臨地実習				学内実習		/	
木	臨地実習				臨地実習		学内実習	
金	臨地実習				学内実習		/	

5. 実習記録

1) 実習記録の様式を参考に作成する。

2) 受け持ち患者情報については、実習後担当教員に提出する。

3) 実習記録は実習終了後、記録内容を整理し、翌週の月曜日に提出とする。

6. レポート

1) 自分が行った援助を、看護論を活用しながら振り返り、「看護の機能と役割」についてA4レポート用紙3枚程度にまとめる。

2) レポートは実習記録と共に実習終了後、2週間以内に担当教員に提出する。

7. 実習評価

基礎看護学実習 I - 2 評価表を用いて、実習終了後2週間以内に臨床指導者と担当教員で評価を行う。

基礎看護学実習 I-2 評価表

項目	評価対象	評価基準 10点	評価基準 8点	評価基準 6点	評価基準 4~0点	点数
1	基本的ニード	・ヘンダーソンの看護理論に基づき14項目のニードの枠組みを用いてすべての項目において情報を分類・整理している。	・ヘンダーソンの看護理論に基づき14項目のニードの枠組みを用いて情報を分類・整理しているが、不十分な項目が1~3項目ある。	・ヘンダーソンの看護理論に基づき14項目のニードの枠組みを用いて情報を分類・整理しているが、不十分な項目が4~8項目ある。	・ヘンダーソンの看護理論に基づき14項目のニードの枠組みを用いて情報を分類・整理しているが、不十分な項目が9項目以上ある。	4
2	基本的ニード	・収集したニードの情報から、充足の度合いをアセスメントし、すべての項目で必要な援助を考へることができている。	・収集したニードの情報から、充足の度合いをアセスメントし、必要な援助を考へることができているが、不十分な項目が1~3項目ある。	・収集したニードの情報から、充足の度合いをアセスメントし、必要な援助を考へることができているが、不十分な項目が4~8項目ある。	・収集したニードの情報から、充足の度合いをアセスメントし、必要な援助を考へることができているが、不十分な項目が9項目以上ある。	4
3	1日の目標	・自己の目標を挙げ、患者の状態に合わせて行動計画を立てることができる。	・自己の目標を挙げ、概ね患者の状態に合わせて行動計画を立てることができる。	・自己の目標を挙げ、行動計画ではないが、自己の目標を挙げることができている。	・自己の目標を挙げることが出来ず、患者の状態に合わせて、行動計画を立てることができない。	0
4	観察・援助技術	・対象の状態を考慮し、根拠に基づいた援助を安全安楽に実践することができる。	・準備や計画、後片付けに助言を要するが、対象の状態を考慮し、根拠に基づいた援助を手動けを得ながら、安全安楽に実践することができる。	・準備や計画、後片付けに助言を要するが、対象の状態を考慮し、根拠に基づいた援助を手動けを得ながら、安全安楽に実践することができる。	・準備や計画、後片付けが出来ず、患者の状態に合わせて、根拠に基づいた看護援助が行えない。	0
5	実践	・標準予防策に基づき以下のすべての項目に関する感染予防策を実施することができる。 ・口腔ケアの前、患者と関わる前後、処置の前(後)における、手洗い・手指消毒、口個人防護具の適切な使用(手袋、エプロン) 口球消毒 口こみみの正しい分別	・標準予防策に基づき、感染予防策を実施しているが、左記の項目のうち、不十分な項目が1項目ある。	・標準予防策に基づき、感染予防策を実施しているが、左記の項目のうち、不十分な項目が2項目ある。	・左記の項目のうち、不十分な項目が3項目以上あり、標準予防策に基づいた感染予防策を実践できない。	0
6	援助の実践 評価考察	・時系列を追って自己の実践内容とその時の患者の反応を詳細に記載している。 ・実習目標の中で優先度の高い実践内容について特に詳細に記載している。 ・実践中、患者の反応を真ながら修正した行動計画を、理由(根拠)を踏まえて詳細に記載している。	・時系列を追って自己の実践内容とその時の患者の反応を記載している。 ・実習目標の中で優先度の高い実践内容について記載している。 ・実践中、患者の反応を真ながら修正した行動計画を、理由(根拠)を踏まえて記載している。	・時系列を追って記載していないが、自己の実践内容とその時の患者の反応を概ね記載している。 ・自己の実践内容とその時の患者の反応は抽象的であるが、時系列を追って記載されている。 ・助言を要するが、実習目標の中で優先度の高い実践内容について記載ができて、実習目標を達成しているが、その理由(根拠)を記載していない。	・時系列を追って自己の実践内容とその時の患者の反応を記載していない。 ・実習目標の中で優先度の高い実践内容(振動)について記載していない。 ・実践中、行動計画を変更した内容を記載していない。	4
7	実践	・患者、家族の話をよく聞き理解すると共に、自分の考えや思いを相手に分かるように伝えている。 ・実施する看護について患者に説明している。 ・看護実践時は患者の反応を言葉かけをしながら言葉かけをしている。 ・プライベートに配慮している。	・患者、家族の話をよく聞き理解しているが、自分の考えや思いを相手に伝えることができていない。 ・実施する看護について患者に説明しているが、相手に伝わっていない。 ・看護実践時は患者の反応を言葉かけをしながら言葉かけを合っていないところがある。 ・プライベートには部分的に配慮している。	・患者、家族の話をよく聞いてはいるが、理解できていないため、自分の考えや思いを伝えることができていない。 ・実施する看護について患者に説明しているが、相手に伝わっていない。 ・看護実践時は患者の反応を言葉かけをしながら言葉かけを合っていないところがある。 ・指掌の下でプライベートシシーへの配慮ができる。	・患者、家族の話を聞いていない。 ・思いを伝えたりしていない。 ・実施する看護について患者に説明していない。 ・看護実践時は言葉かけをしていない。 ・プライベートに配慮していない。	0
8	レポート	・自らの看護場面を記載し、その体験の意味を看護論を用いて考察することができる。 ・論旨が一貫性がある。 ・期限までに提出できている。	・自らの看護場面を記載し、その体験の意味を看護論を用いて概ね考察することができる。 ・看護論は一言している。 ・期限までに提出できている。	・自らの看護場面を記載し、その体験の意味を看護論を用いて考察することができる。 ・看護論を用いた考察はあまりないが、自らの看護場面は記載され、論旨が一貫している。 ・一度とした論旨となるには改善が必要。 ・期限を過ぎたが、提出できている。	・自らの看護場面がなく、その体験の意味を看護論を用いて考察することができていない。 ・論旨が一貫していない。 ・期限を過ぎても提出できない。	0
9	項目 報告	・看護師や教員に報告・相談をしている。 口援助前後 口適切なタイミング 口患者の変化 口自己の所在	・報告・連絡・相談が不十分な項目が1項目ある。	・報告・連絡・相談が不十分な項目が2項目ある。	・報告・連絡・相談が不十分な項目が3項目以上ある。	1
10	主体性	・自己の課題解決に向け実習に臨み、学習を進めている。 ・自分から進んで積極的に声を出し質問し、早期に解決しようとしている。 (アドバイスの赤ペンに対し、調べて返答している)	・自己の課題を理解し、学習を進めている。 ・自分から進んで積極的に質問し、解決しようとしているが、時間がかかる。	・学習を進めているが、自己の課題に結びついていない。 ・自分から進んで積極的に質問し、解決しようとしているが、自分から進んで解決しようとする努力が足りない。	・学習を進めていくにあたり、学習を進めていない。 ・自分の分からなところを認識していない。	0
11	行動	・看護学生としてふさわしい、清潔感のある身だしなみを整えている。 口髪 口爪 口化粧 口靴 口靴下 口ピアス 口カラー コントラクトレンズ 口姿勢 ・常にはっきりと明るい声であいさつをしている。 ・時間や約束事、ルールに合わせて行動している。	・身だしなみにおいて、左記の項目について乱れている項目が1~2項目ある。 ・あいさつをしているが声が小さかったり不明瞭なことがある。 ・常にあいさつをしているが、時にし忘れていない。 ・時間や約束事、ルールを守れないところがある。	・身だしなみにおいて、左記の項目について乱れている項目が3項目ある。 ・あいさつをしているが不明瞭なところがあり、時にし忘れていないところがある。 ・時間や約束事、ルールを守れないところがある。	・身だしなみにおいて、左記の項目について乱れている項目が4項目以上ある。 ・あいさつをしないか、ほとんどできない。 ・時間や約束事、ルールを守れないことが4回以上ある。	0
12	出席状況	・自らの体調を整えて実習に臨み、全日出席している。 ・体調がすぐれない時は、自ら教員や病棟スタッフに申し出て、必要なら処置をしている。	・自らの体調を整えて実習に臨んだが、遅刻・早退・欠席・欠席があった。 ・体調がすぐれない時は、自ら教員や病棟スタッフに申し出て、必要なら処置をしている。	・自らの体調を整えて実習に臨んだが、2日以上遅刻・早退・欠席があった。 ・体調がすぐれない時に必要なら処置ができていない。		

合計 /100点

基礎看護学実習Ⅱ / 2学年

1. 実習目的

健康上の問題により基本的ニーズが阻害されている患者に対し、日常生活援助を中心に計画的に看護を行える能力を養う。

2. 実習目標

- 1) 患者の基本的ニーズを把握することができる。
- 2) 患者のニーズに応じた援助を計画し、実践できる。
- 3) 患者の反応から自己の援助の評価ができる。
- 4) 保健・医療・福祉チームとの良い人間関係のあり方を理解する。

3. 実習方法

1) 患者を受け持ち、看護過程を展開する。

(1) 患者の条件

- ・ 阻害されている基本的ニーズが把握しやすい患者
- ・ 比較的軽症な患者
- ・ 複雑な問題を持たない患者

(2) 受け持ち患者の決定後、看護要約を用いて実習前日までに担当教員より学生へ情報提供する。

(3) 患者・家族の同意については、臨地実習同意記録を用いながら説明し同意を得る。

(4) 情報収集

- ・ 患者とのコミュニケーションや観察
- ・ 家族、医療従事者からの情報収集
- ・ 記録物からの情報収集

(5) 情報の分析・解釈と問題の明確化

- ・ 情報を分析・解釈し、基本的ニーズの充足・未充足を判断する。
- ・ 全体関連図を記載し、看護上の問題と関連因子を明らかにする。

(6) 看護計画の立案

- ・ 看護目標は達成できたかどうかを評価できる表現にする。
- ・ 解決策はOP（観察）・TP（処置及びケア）・EP（指導）に分け、記述する。

※ 看護計画の立案・修正は4日目の13:45から行う。そのため、前日に教員と看護計画について相談する。

(7) 実施

- ・ 看護計画に基づき援助を安全・安楽に実施する。
- ・ 援助技術は原理原則をふまえて行う。
- ・ 患者のプライバシー・尊厳を守るための配慮をする。
- ・ 援助は計画性があり、患者との合意のうえで行う。
- ・ 患者の個別性に応じた援助の方法を工夫する。

(8) 評価・修正

- ・ 実施した結果や、患者の反応から援助を評価する。
- ・ 行った援助が目標にどれだけ近づいたかを客観的に評価する。
- ・ 目標が達成できない場合は、その理由を明確にする。
- ・ 看護計画を修正する。

2) 記録・報告

- (1) 看護記録はメモ帳に下書きをし、指導者の指導を得てから本書きする。
- (2) 受け持ち患者に関することは受け持ち看護師に報告する。
- 3) 学生は毎日一日の目標と行動計画を立て、指導者の助言を得ながら行動する。
- 4) 患者カンファレンスやミーティングを通じ、情報の共有化をはかる。
- 5) 学生カンファレンス
 - (1) 毎日の指導者とのミーティングを密に行い、学生カンファレンスは看護計画立案後と3週目の最終日に行う。
 - (2) 個人の経験をグループメンバーで共有し、共同学習の場とする。
 - (3) カンファレンスを通じ、看護計画の必要性を再認識する。

4. 実習時間 (単位)

総時間 90 時間 (2 単位)

- 1) 臨地実習 74 時間
- 2) 学内実習 26 時間 (0.58 単位)

目的：臨地での学びを振り返り、学びを共有する。

- 内容：①実習グループごとに担当教員と共にミーティングを行い、援助の方向性について話し合い翌日の援助につなげる。
- ②受け持ち患者の看護を実践するために不足している学習を進める。また、技術練習の機会とする。
 - ③教員の指導のもと、看護計画の立案や修正、実習の記録を整理する。

<実習時間>

	9:00~9:45	9:45~10:30	10:30~11:15	11:15~12:00	12:00~12:45	13:45~14:30	14:30~15:15	15:15~16:00	16:00~16:45
月			臨地実習			臨地実習		学内実習	
火			臨地実習				学内実習		
水			臨地実習			臨地実習		学内実習	
木			臨地実習				学内実習		
金			臨地実習			臨地実習		学内実習	
月			臨地実習			臨地実習		学内実習	
火			臨地実習			臨地実習		学内実習	
水			臨地実習				学内実習		
木			臨地実習			臨地実習		学内実習	
金			臨地実習			臨地実習		学内実習	

5. 実習記録

- 1) 実習の記録を参考に作成する。
- 2) 「実習を終えて」は、実習目標に沿って評価した内容を記載する。
- 3) 「実習記録」については実習終了後、回収する。
- 4) 実習記録は実習終了後、記録内容を整理し、翌週の月曜日の朝に提出とする。

6. 実習評価

基礎看護学実習Ⅱ評価表を用いて、実習終了後2週間以内に臨床指導者と担当教員で評価を行う。

基礎看護学実習Ⅱ評価表

項目	評価基準 6点	評価基準 4点	評価基準 3点	評価基準 0~2点	点数
1	受け持つまでの経過を全記載している。 □診断書 □既往歴 □病歴 □生活史 □治療方針 □看護方針 入院前の日常生活を以下の項目に沿って情報収集している。 □食事 □睡眠 □排便 □体位 □褥瘡 □清潔 □排泄 □清潔 □衣生活 □環境 □身体 体重 □日頃の過ごし方 □性格 □嗜好 □用具 □形態機能障害	受け持つまでの経過を記載しているが、不十分な項目が1~2項目ある。	受け持つまでの経過を記載しているが、不十分な項目が3~9項目ある	受け持つまでの経過を記載していない	0
2	ヘンダーソンの看護理論に基づき14項目の二つの枠組みを用いてすべての項目において情報を整理している。	ヘンダーソンの看護理論に基づき14項目の二つの枠組みを用いて情報整理しているが、不十分な項目が1~3項目ある	入院前の日常生活について、左記のすべての項目について情報を収集しているが、内容が不足している。または、不十分な項目が4~7項目ある	入院前の日常生活について、左記のいくつかの項目について情報を収集しているが、内容が不足している。または、不十分な項目が8項目以上ある	1
3	ヘンダーソンの看護理論に基づき14項目の二つの枠組みを用いてすべての項目において情報を整理している。	ヘンダーソンの看護理論に基づき14項目の二つの枠組みを用いて情報を整理しているが、不十分な項目が4~8項目ある	今までのような生活をしていたか理解しているが、不十分な項目が1~2項目ある	今までのような生活をしていたか理解していない(1点)	1
4	収集した二つの情報から、充足の度合いをアセスメントし、必要な援助を考へることができる。	収集した二つの情報から、充足の度合いをアセスメントし、必要な援助を考へることができるが、不十分な項目が1~9項目ある	今までのような生活をしていたか理解しているが、不十分な項目が1~2項目ある	今までのような生活をしていたか理解していない(1点)	1
5	対象の病態生理・症状・検査・処置について図や表を用いて整理している。	対象の病態生理・症状・検査・処置について図や表を用いてわかりやすく整理しているが、不十分な項目が1~3項目ある	対象の病態生理・症状・検査・処置について図や表を用いてわかりやすく整理しているが、不十分な項目が4~8項目ある	対象の病態生理・症状・検査・処置について図や表を用いて整理していない	0
6	関連図において必要な情報の記載があり、関連付けも個別性に合わせて出来、看護計画に反映させる。	関連図において必要な情報の記載があり、関連付けはできているが不十分な項目が1~2項目ある	関連図において必要な情報を記載しているが、不十分な項目が1~3項目ある。	関連図において必要な情報を記載しているが、不十分な項目が4項目以上ある。	2
7	看護計画を立てる。	看護計画を立てるが、優先度の高いものから優先順位を決めることができる。	かなりの助言を受けて問題点の明確化が疎かである。	かなりの助言を受けて問題点の明確化は疎かであるが不十分なところがある。	2
8	看護計画を立てる。	看護計画を立てるが、優先度の高いものから優先順位を決めることができる。	健康問題の優先順位が、患者の状態にあてはまらないことがある。	健康問題の優先順位を決定するために2度以上の助言を要す	2
9	看護計画を立てる。	看護計画を立てるが、優先度の高いものから優先順位を決めることができる。	かなりの助言を受けて長期目標と短期目標を設定し、概ね記載している。	かなりの助言を受けて長期目標と短期目標を設定し記載しているが患者の状態と合っていないところがある。	2
10	看護計画を立てる。	看護計画を立てるが、優先度の高いものから優先順位を決めることができる。	解決策は、助言を受けて概ね具体的に記載されている。	解決策は、助言を受けても記載が不十分であり、具体性がない。	2
11	1日の行動目標は看護計画に基づき援助によって期待される患者の状態が設定されている。 (1日)達成可能な状態が設定される具体的記載している。 患者の1日の生活や治療・処置のタイムスケジュールを記載している。	1日の行動目標は看護計画に基づき援助によって期待される患者の状態が設定されているが、1日で達成可能な目標でない。 患者の1日の生活や治療・処置のタイムスケジュールが、患者の1日の生活や治療・処置などを考慮していない	1日の行動目標は看護計画に基づき援助によって期待される患者の状態が設定されているが、患者の状況と合っていない	看護計画に基づいた1日の行動目標を設定していない ・実施する看護について患者に説明していない ・看護実践時には言葉かけをしていない ・プラバイザーへの配慮を記載していない	0
12	患者の反応に合わせて計画に基づいて実施できる。 看護技術に共通した原則を守っている。 □安全管理 □感染予防 □交差感染	患者の反応に合わせて計画に基づいて実施できるが、理解しずらい点がある。 看護技術に共通した原則を守っている。	患者・家族の話をよく聞き理解しているが、自分の考えや思いを相手に伝えることができていない。 実施する看護について患者に説明している。 看護実践時には言葉かけをしていない。 プラバイザーへの配慮を記載している。	患者・家族の話を聞いてはいるが、理解できていないため、自分の考えや思いを相手に伝えることができていない。 実施する看護について患者に説明していない。 看護実践時には言葉かけをしていない。 プラバイザーへの配慮を記載していない。	1
13	看護計画を立てる。	看護計画を立てるが、優先度の高いものから優先順位を決めることができる。	計画内容と実際の対応に比べて考察し記載しているが、自己の実践内容とその時の患者の反応の記載が一部不足している。 患者のプラバイザーに依頼した実践であったかを評価し、記載している。 患者に応じた看護技術の提供を評価しているが不十分な項目が1~2項目ある。	自己の実践内容とその時の患者の反応を記載していない 計画の内容に沿った援助内容の記載ができていない。 患者のプラバイザーに依頼した実践であったかを評価していない。 患者に応じた看護技術の提供を評価しているが不十分な項目が4つ以上ある。	1
14	実施・評価	実施・評価	報告・連絡・相談が不十分な項目が1つある。	報告・連絡・相談が不十分な項目が1つ以上ある。	0
15	看護計画を立てる。	看護計画を立てるが、優先度の高いものから優先順位を決めることができる。	自分の課題を理解し、学習を進めているが、時間がかかると分らないところを解決しようとする努力が足りない	学習を進めているが、自分の課題に結びついていない 自分の分からないところを解決しようとする努力が足りない	2
16	看護計画を立てる。	看護計画を立てるが、優先度の高いものから優先順位を決めることができる。	より良い看護実践をするために実習グループ内で、自らの経験・困り事・よくできた事などを話し合っている。	実習グループ内で自らの経験や自分の考えを述べず、他学生の話を聞いていないことがある	2
17	看護計画を立てる。	看護計画を立てるが、優先度の高いものから優先順位を決めることができる。	自らの体調を整えて実習に臨み、全日出席している。 体調がすぐれない時は、自ら教員や病棟スタッフに申し出て、必要な対応をしている。	自らの体調を整えて実習に臨み、全日出席している。 体調がすぐれない時は、自ら教員や病棟スタッフに申し出て、必要な対応ができていない	2
18	看護計画を立てる。	看護計画を立てるが、優先度の高いものから優先順位を決めることができる。	報告・連絡・相談が不十分な項目が1つある。	報告・連絡・相談が不十分な項目が1つ以上ある。	0
19	看護計画を立てる。	看護計画を立てるが、優先度の高いものから優先順位を決めることができる。	自分の課題を理解し、学習を進めているが、時間がかかると分らないところを解決しようとする努力が足りない	学習を進めているが、自分の課題に結びついていない 自分の分からないところを解決しようとする努力が足りない	2
20	看護計画を立てる。	看護計画を立てるが、優先度の高いものから優先順位を決めることができる。	より良い看護実践をするために実習グループ内で、自らの経験・困り事・よくできた事などを話し合っている。	実習グループ内で自らの経験や自分の考えを述べず、他学生の話を聞いていないことがある	2
合計					／100点